

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493200057	事業の開始年月日	平成 18年11月1日
		指定年月日	平成 18年11月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家横浜上白根		
所在地	(〒241-0001) 神奈川県横浜市旭区上白根町9-7-3		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年11月	評価結果 市町村受理日	令和6年7月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

レク、イベントを行い、ご利用者様が楽しんで生活出来る様に支援しています。天気のいい日に外気浴、散歩などしています。お天気の良い日はテラスでティータイムを楽しんだり、近くの公園にお散歩に出かけるようになりました。ご家族の面会も出来るようになり、ご自宅に変えられる方もいらっしやいます。今までご家族との触れ合いも無くさみしい思いをされていたので、チャンスがあればご面会のお誘いをしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和 5年12月7日	評価機関 評価決定日	令和6年2月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所は、相鉄線・鶴ヶ峰駅よりバス便利用で、最寄りの上白根バス停から徒歩5分にある。近くには白根大池公園やよこはまズーラシア、花博会場などがある。事業所周辺は、緑豊かな自然に恵まれた環境に新しい民家が点在している。建物は鉄骨造り2階建ての2ユニットからなっている。玄関前の花壇には樹木や色とりどりの花々が植えられ、利用者の気持ちを和ませる憩いの場になっている。 【健康維持における充実の医療体制とレクリエーション】 なかなか外出が出来ない状況下、生活に変化を持たせるため、室内での小規模レクを行うことに力を入れている。法人主催のオンラインでのNOA体操を週に1回実施して、身体を動かすことで利用者の気分転換と筋力維持を図っている。かかりつけ医は、24時間オンコール体制、365日医療体制を整えて、高齢者の体調管理に努めている。 【利用者が思い思いに過ごせるホーム作り】 利用者のペースに合わせて生活できるように無理強いをせず、個々の要望に配慮している。季節に合わせた工作レクや、おはぎ作りなどのおやつレク誕生日会などを実施している。12月には家族を交えたクリスマス会を企画している。企画などの情報は「一言通信」と「スタッフブログ」を通して、家族に伝えている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	
ユニット名	G H横浜上白根 1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	☐	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	☐	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	☐	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	☐	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	☐	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	☐	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

事業所名	グループホームみんなの家横浜上白根
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔あふれる活動的なホーム」に沿って利用者様の心に寄り添い笑顔溢れる様にしている。此処の利用者様をより知る事で、何を訴え何を求めているのか…その思いに寄り添うようにしています。	昨年、開所以来の理念を見直し、管理者と職員で話し合って、現在の理念「利用者様を良く知り個々のニーズに寄り添う、居心地の良い笑顔あふれる楽しいホーム」を作成した。理念は、玄関先に掲示し共有している。また会議で話し合うこともある。職員は、利用者を良く知り、個々のニーズを把握するために、日々のケアの中で表情や動作から推測し、声掛けを工夫するなどして、理念の実践に努めている。また利用者と一緒に食事やおやつを楽しむほか、季節に合わせたおやつレクの機会を増やし、理念にある、居心地の良いホーム作りに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移動スーパー、パン屋などで地域の方と交流しています。定期的に来て頂いている出張販売やパン屋さん等近隣の人達も集われ会話をしたり、公園に散歩した時にはご挨拶したり時折折りに交流をしています。	上白根町内会に加入し、近隣の15～16軒で回覧板のやり取りをしている。週1回、移動スーパーと月2～3回、移動パン屋が事業所の駐車場を訪れており、利用者・職員と近隣住民の交流の場となっている。散歩の際にも地域の方と交流している。地域ケアプラザが主催する「福祉フェスティバル」に参加し、事業所の特色やレクリエーションのポスターを掲示した。元利用者の家族がゴスペルのボランティア活動を行っており、4年振りに事業所のクリスマス会を訪れる予定となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で活動も行えていませんでしたが、活動に向け始動中		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催をしています。民生委員の方と連絡は取っていましたが、活動に向け始動します。	運営推進会議についてコロナ感染予防の観点から令和5年3月までは書面開催であったが報告書の提出はされていない。その後は書面での開催もなく議事録もない。隣家のオーナーには利用状況や事故の有無・職員の異動状況について随時報告を行って、意見を聞いている。家族には月1回送付の「一言通信」とスタッフブログで確認してもらうように伝えられている。1月からは対面での運営推進会議を再開し、議事録を家族にも郵送する予定である。	4月以降は、書面開催も報告書の提出も行っていない。来年からは対面での開催を予定されていますが、運営推進会議は事業所運営において重要なポイントになります。今後は更に適正な会議開催と報告書の提出がされるよう期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の方と連絡を取り情報交換をしています。市町村に出向く機会があります。協力関係を持つようにしています。	生活保護費を受給している利用者が1名入居している。旭区の生活支援課職員と電話連絡を取り合い、担当職員が来所し、利用者と直接面談している。旭区・高齢障害支援課とは、何かあれば日頃から電話で相談している。利用者の介護保険認定調査の為、事業所を訪問した調査員より助言や指導を受けている。介護保険の認定申請や区分変更等の手続きは、全て家族に依頼している。旭区主催の感染症や防災など研修会の案内メールは届いているが、参加は叶っていない。地域包括支援センターとは、ケアプラザ主催の「福祉フェスティバル」への協力のほか、運営推進会議を通じた連携を取っている。旭区・瀬谷区合同のグループホーム連絡会に加入している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	2か月に一回委員会を開き意識の向上を図っています。社内には「身体拘束適正化委員会」があり定期的に資料やテキストを元に講師の講義を受け、身体拘束の無いホームを目指しています。	運営規定と契約書には法人の定めた指針を記載している。身体拘束廃止委員会を年4回、研修を年2回実施している。委員会では、毎回、法人から課題が届き、オンラインの動画内容に沿って話し合っている。現在、身体拘束に該当する行為はない。帰宅願望などがある利用はいないが、玄関とフロアの出入り口は施錠している。窓には、法人発案の安心ロックを付けて、換気の際も全開放できないように対策している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	2か月に一回委員会を開き意識の向上に努めています。社内には「虐待防止委員会」があり定期的に資料やテキストを元に講師の講義を受け、虐待の無いホームを目指しています。	法人の定めた指針があり、「虐待ゼロへのポスター」を玄関に掲示している。2ヶ月に1回、法人からのテーマに沿って、高齢者虐待防止委員会を開催している。年2回の研修ではEラーニングの「高齢者虐待防止のためのセルフチェック」を全職員に実施している。受講後には、レポートを提出し、提出内容を基に、フロア会議で話し合っている。会議内容は、議事録に残し、法人本部に提出している。管理者は、不適切なケアや接遇で至らない場面が見受けられた際は、その場で注意すると共に会議やグループLINEで内容を共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できる	開催予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に契約書のサンプル送付し理解して頂いたうえで契約時に再度説明し質問を受ける等理解を得て頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様のご意向を面会時に伺っています。「お客様相談窓口」があり意見を頂き反映しています。またホームでもご意見を頂きやすくなるようご家族等のコミュニケーションを深めるようにしています。	「一言通信」とスタッフブログで利用者の近況をお知らせしている。家族との面会は事前申し込み制とし、居室で15分程と制限のうえ、実施している。面会時は、家族の意向や要望を直接聞く機会となっている。また、ご意見箱は設置していないが、電話のほか、介護計画の変更の際に直接家族の意向や要望を聞いている。以前は年2回、家族会を開催していた。12月に予定しているクリスマス会からは、イベントへの家族の参加を再開する。家族会も来年から再開する予定である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を開き意見交換を行っています。毎月の「フロア会議」定期的な「全体会議」で職員が意見を出し合い決議しています。	「全体会議」・「フロア会議」を毎月開催し、その他、身体拘束廃止委員会、高齢者虐待防止委員会やそれぞれの研修会を毎月交互に開催している。また、年2回、個人面談（10月・3月）を実施している。会議・委員会・面談などの環境が職員が意見を発言する場となっている。業務の希望や困りごとを聞き取って、それぞれ反映させている。管理者は職員と互いに話しやすい関係性が築けていると考えている。職員から遅番の勤務時間を1時間前倒したらどうかとの提案があり、法人に相談し、1月から実施することが決定した。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の希望を聞き、反映しています。職員個々の希望を受け入れシフト作成しています。	人事考課は、決められた書式で職員が自己評価を行い、管理者が一次評価と面談を実施し、本部エリマネージャーが二次評価を行うシステムとなっている。個人面談は年に2回（10月・3月）常勤、非常勤関係なく定期的に行っている。職員が有給休暇を取りやすいように、勤務シフトを配慮している。法人では、産前産後休暇、育児休業、介護休暇制度を整備している。職員の健康診断は年に1回実施し、夜勤を行う職員は年に2回となっている。ストレスチェックは行われていない。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では研修制度が多くなり学事が出来ます。社内にはスキルアップ研修・資格取得制度もあります。自己啓発に取り組んでいます。	資格取得に際して、法人が行っているオンラインでの初任者研修・介護福祉士実務者研修を受講する際は、公休扱いとし、法人から、受験料、受講料補助がある。介護福祉士とケアマネジャーには資格手当が支給される。新入職員にはキャリア入社研修制度があり、初めて法人の事業所で働くことになる職員に対してもオンラインでの座学と本部での実習を伴った教育体制が整っている。非常勤職員から常勤職員への雇用転換は、職員の希望がある場合に、本部と相談し、家庭の事情や適性を見定めながら対応している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	停止していましたが、活動に向け始動中		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の気持ちに寄り添い傾聴し、不安を取り除きホームでの生活が出来るよう、また職員との信頼関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のご要望や不安に耳を傾けお困りの点にも改善されるよう努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご要望に応えられるようにしています。 シニアセラピーの施術・理美容等出来るサービスを話し合いながら導入しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の「出来る事・出来ない事」を見極め家事の中で一緒に行えるものに参加をして頂いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の求める家族の絆を大切にご家族の関わりを、より多く持てるよう情報提供をしたりお誘いをしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に確認を行い、面会、電話にてお話しをして頂いています。知人や、お友達だった方からの連絡は取り次ぐようにしています。	友人、知人から面会の希望があった場合は、家族に確認し、居室に案内し、15分程度で実施している。電話の取り次ぎや手紙、年賀状、暑中見舞いの作成を支援している。週1回の移動スーパー、月2～3回の移動パン屋の担当者とは、顔なじみの関係になっている。天候・体調に合わせて、家族との通院受診時に食事に行くほか、家族との外出時にお墓参りや自宅や馴染みの場所へ行く方もいる。従前からの趣味の絵画や写真撮影を続けている方や、家族の了解を得て自分で新聞を定期購読している方がいる。家族が持参した好みのコーヒーを1日3杯程度、楽しむ方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事等「出来る事」を一緒に行いコミュニケーションを持つ機会を作っています。また出来ない方も輪の中に加わって頂き雰囲気を楽しんで頂くようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される時には情報提供しています。 またそのご家族共交流を持つようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思疎通が難しい方は表情や仕草でくみ取るようにしています。居室で「TVをゆっくり見たい」散歩には草花を収集し「飾りたい」「今日は動けない着替えさせて」等々日々のご要望にお応えしています。	日々、積極的に声掛けをして、表情やしぐさから利用者の意向や思いを読み取り、把握している。意思疎通が困難な利用者7名については、日頃の様子から推察している。日常の入浴や玄関先での日光浴など1対1となる場面で、個々の要望や本音を聞き取ることが多い。家族に「一言通信」とスタッフブログで、利用者の様子を伝えて、ケアプラン更新時の面談や電話で意見や要望を確認している。また、居室担当者がカンファレンスで利用者の状況を発表し、面談や電話等で得た家族の思いや情報を介護計画に反映するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・趣味・等ご家族から提供して頂き把握し、日常生活に生かせるよう努めています。しかし困難な要求もありお応えできない事もあります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化等は記録に残し口頭や送りで共有しています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開き話し合いを行っている。利用者様の変化や必要時、急を要する時は随時カンファをし話し合うようにしています。ご家族・看護師・歯科医・薬剤師等の意見も聞きながら介護計画に反映させています。	ケアカンファレンスは毎月のフロア会議で行っている。ケアマネジャーと居室担当者が日頃の様子について話し合いを行い、プラン継続・実行の必要性を判断している。ケアプランでは、事前に聞き取った医師の意見や家族の意向をモニタリングに反映している。介護計画の見直しは3ヶ月で行い、短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月としているが、特に体調の変化がなければ12ヶ月まで延長する場合もある。ただし、期間途中でも変化があれば、都度、見直しを行っている。介護記録では、サービス提供内容の項目を番号で表記し、介護計画のサービス内容と連動させることで、実施状況を確認している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の変化や必要時、急を要する時は随時カンファをし話し合うようにしています。暫定で実施し、継続必要の時は介護サービスに入れています。家族の意向も伺い反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況により、代行で通院同行したり、市町村への代行もさせて頂いています。面会時間も柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徐々に来る事があれば参加していきます。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1か月に2回往診に来て頂きます。また体調不良などの時は臨時で往診に来て頂けます。内科・歯科・には入居時同意を得ていますが、ご家族様希望によりかかりつけ医の希望があれば継続して頂きます。ご家族の通院同行不可の時は職員が変わってお連れしています。	入居者全員が協力医療機関（港北メディカルクリニック）をかかりつけ医としている。月2回、看護師同行のうえ来所し、訪問診療を行っている。緊急協力病院として横浜旭中央総合病院と協定し、専門的な検査に対応している。歯科医（元住吉デンタルオフィス）は月2回の頻度で予定表により往診し、利用者全員の治療や口腔ケアを行っている。月4回、歯科衛生士が来所のうえ、口腔ケア指導を行っている。皮膚科や整形外科、眼科の受診は原則家族対応としている。受診結果を通院報告書に記載し、かかりつけ医に申し送っている。月4回、法人内の訪問看護師が利用者の健康観察のため来所している。内科医は24時間オン・コール体制となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との情報共有しています。必要に応じ医療・薬局等と連携をし指示をうけ利用者様の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には主治医・相談員と面会し経過情報を頂いたり、退院に向けホームでの生活に繋げるようDrからの指示を受けるようにしています。またご家族の意向も伺っています		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と相談し、ご家族様の意思を確認し、ホームで最後まで過ごせるよしています。主治医との連携を図りつつ「看取り」「終末期」を迎えるにあたりご家族と話し合いを持ち方針を共有しています。職員・家族共話し合いながら主治医との連携を密にチームで取り組んでいます。	入居時に「看取り介護指針」を説明し「事前確認書」を作成している。医師が終末期と判断した際に医師及び家族・管理者で話し合い、「看取り介護及び加算についての同意書」を説明し、家族から同意を得ている。その後、看取りケアプランに基づき看取り介護を行っている。今年度の看取り実績は3件だったが、現在も2名の看取り対象者がいる。看取り期はご家族のご都合に合わせて面会支援をしている。看取り後は、看取り介護を初めて経験した職員には、管理者が個別に話をして、気持ちの切り替えを行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の身体状態の急変・事故発生時に備え、いち早くの発見と医療機関の指示をうけるようにしています。心肺蘇生・AED訓練をしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っています。避難場所の共有・緊急連絡網の緊急要請職員等の確認をしています。	3月に夜間想定避難訓練を行い、消防署にも電話で報告している。年明けに更に1回の避難訓練を予定している。消防用設備として、スプリンクラー・消火器・自動火災報知機があり、先日、設備の点検と確認を行った。事務室・厨房・共用部分の家具やテレビ等には、転倒防止策を講じている。災害用備蓄は、利用者の分として厨房の床下に飲料水と備蓄食料を3日分保存している。加えて、日常の食事用に準備している米と2日分のチルド食材もストックとして活用できる。現在、災害備蓄品としてガスコンロとガスボンベ及び簡易トイレやおむつなどの介護用品を備えているが、管理リストはない。BCP（自然災害発生時における事業継続計画）は法人本部で作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの工夫をしています。年齢と共に耳も遠くなり、ついつい大きな声で話す事になりがちです。排泄時のお誘い・下衣の交換等随所ありがちです。意識をしながら取り組んでいます	トイレに誘導する時は周囲に気を配り、利用者の近くに行って、さりげなく声掛けしている。利用者の呼称は、名前で呼ぶほうが反応の良い利用者を除いて、苗字にさん付けとしている。居室に立ち入る際は利用者の許可を得ており、居室のドアはプライバシーが保てるように居室内からも施錠出来る構造になっている。個人情報を含む書類は、事務所の施錠できるキャビネットに保管している。パソコンは各フロアに1台あり、パスワードを設定して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の出来ない利用者様も少なくないですが、必ずうかがうようにしています。洋服も「今日はこれ」と選ぶ方もいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自立されている方は、食事・お茶の時間・入浴等の時間以外はほぼ自由にされています。居室で好きなTV番組を楽しまれる方。居室でドリルをしたりフロアで職員とおしゃべりしたりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方はご自分で決められています。選べない方は同じ服にならない様に工夫しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶碗拭き、お盆吹きなどお手伝いして頂いてます。メニューは決まっています。好みの物をお聞きする事は出来ませんが、食後の食器拭きやおやつ作りをしたり楽しく行えるレクを設けるようにしています	食事は、法人方針により昨年の夏からチルド食材に変更となった。業者から宅配便でチルド食材が届けられ、職員が湯煎して利用者に提供している。献立は業者の栄養士が作成している。また、毎週水曜日には冷凍食品の「まぐろのたたき丼」や「麺類」を提供し、飽きさせない工夫をしている。利用者の状態に合わせた、きざみ食や、ミキサー食にも対応している。おやつレクでは1～2ヶ月に1回、職員が材料を調達して、桜餅等の季節のお菓子を利用者と一緒につけている。また、誕生日会にも利用者と一緒に、ケーキを手作りして楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は記録し1日の摂取量を把握しています。 摂取量の少ない方は主治医に繋げ栄養ドリンクを補足したり減量の必要な方等指示を受けています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方には声掛けしながら行っています。 歯科衛生士・歯科Drの指示で仕上げを行ったりします。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的に誘導を行い、シグナルを模索しています。今年度は成功者はありませんでしたが、自立に向けた取り組みはしています。	現在、布パンツを使用している利用者が1階に2名、2階に2名おり、その他の方はリハビリパンツにパッドとおむつを併用している。トイレでの定時誘導介助と見守りを基本として自立に向けた支援を行っている。現在、事業所全体で自らトイレに行ける利用者は14名である。入居時には布パンツを使用している利用者が多く、自立の方にも布パンツまたはリハビリパンツにパッドを使用するという現状を、できるかぎり、保持できるように対応している。夜間、自立の方以外は、定時誘導を基本とし、個々の状態に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をとり水分摂取の工夫また服薬コントロールをしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	無理強いせず声掛けを行い週2回入浴出来るようにしています。基本、必ず職員が付き添います。此処に応じた好きな時間に入って頂きたくても職員が一人の時もあり対応は難しいです。しかし曜日と時間帯は決めています職員に余剰ある時は入って頂いてます。	入浴は、週に2～3回、午後を基本としている。1階にリフト浴と浴室用車イスがあり、1階、2階合わせて11名が利用している。2階は個浴タイプの浴槽となっている。皮膚疾患のある方は、毎日入浴するなど流動的に対応している。入浴を好まない方には声掛けなどにより気分転換を図ってもらいつつ、入浴を促したり、入浴日を変更するなどして対応している。柚子湯や菖蒲湯で季節感を楽しむ工夫をしている。皮膚トラブルにより、専用の石鹸やシャンプーを使う方もいる浴室暖房ヒーターを設置、脱衣場にはエアコンを設置してヒートショック対策をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様本位のペースで自由に休まれています。夜間の睡眠の妨げにならない程度で音声掛けするようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師と連携し、服薬指導を受け、相談しながら支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分の役割となっている方もいます。食器拭きをされる方・洗濯物は私の仕事…と仰りながら楽しんで参加しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先にて外気浴などしています。ほぼ出来ていません。ご要望があれば再開していきたいと思います。	以前は事業所の近くの公園まで散歩をしていたが、現在は事業所の駐車場での外気浴や、隣にあるオーナー宅の花壇を見るなどしている。歩行可能な利用者は移動スーパーや移動パン屋の来訪時に駐車場で買い物や会話を楽しんでいる。車椅子を使用している利用者は天気の良い日に2階のベランダに出て、外気浴を楽しんでいる。家族と一緒に外出したり、受診の時に食事やお墓参りなどに行く利用者もいる。外出の代わりに、室内での小規模レクを行うことに力を入れ、月3～4回、法人主催のNOA体操をオンラインで実施している。月1回は、法人本部・健康推進課のインストラクターが来所し、健康体操の指導をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行えていませんが、今後使える支援をしていきたいと思っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をして頂いたり、電話がかかってきたりします。楽しくお話をされています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるように工作物を掲示したりしています。壁飾りに季節物を一緒に作っています。和菓子を一緒に作り、抹茶でお茶会をしたり楽しんでいます。今年も金柑が豊作で金柑ジュースを一緒に作りました	リビングは日当たりが良く明るい。日中はカーテンで明るさを調整している。職員がエアコンを調節して温度管理している。また換気を心掛け、加湿器を設置し、湿度計を参考に湿度管理している。清掃では、職員のモップ掛けを利用者が手伝うこともある。リビングには、利用者と職員が一緒に作ったクリスマスツリーが飾られ季節感を感じられる。ぬり絵をする利用者が多く、リビング壁面の展示コーナーが発表の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読まれる方・TVを見られる方等 席も配置を考慮し馴染めるようにしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に愛用していた物を持って来て頂いたりしています。ご家族の写真や、お孫様の写真を壁に貼っている方もいます。TVを持ってこれくつろがれています	居室設備としては、エアコン、クローゼット、ベッド（寝具一式）、防災カーテン、チェスト、照明、洗面台がある。利用者は使い慣れた家具や仏壇、位牌やテレビ等を持ち込み、居心地の良い空間となっている。壁面に、利用者が描いた絵画を写した写真やぬり絵作品を飾っている。居室内の清掃は日勤職員が行い、出来る利用者は掃除を手伝っている。寝具のシーツ交換は職員と利用者が協力して毎週行っている。ベッド下に人感センサーを設置して、転倒予防や離床確認に役立てている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知の重度化・歩行不安定、等で危険なリスクは排除しています。職員の見守り重視で動きやすい動線にしています		

目 標 達 成 計 画

事業所名 GH横浜上白根

作成日 令和6年7月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議を活かした取り組みについて	○定期的に開催を行い報告を行う	○定期的に開催を行い、関係各所に開催報告書の提出を行う。 ○イベントに合わせて開催し多くの方に参加して頂けるように行う。	6ヶ月
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。